長野県木島平村＆ 早稲田大学
地域連携ワークショップ 2026

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光・・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

●村の課題の解決、観光振興、地域活性化につながる**政策立案に携わる**ことが出来ます。

●村長をはじめ村役場や地域住民の方々に**直接ヒアリングする貴重な機会**があります。

●グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」実践領域の対象プログラム（2 単位相当）です。（注意事項⑩要参照）。

テーマ

地域資源を活かし、木島平の新しい可能性をつくる

～スキー場を起点に、人が訪れ、地域とつながり続ける仕組みづくり～

木島平村では、地域内での消費の拡大、新たな来訪者層の獲得、そして村を訪れた人々との継続的な関係づくりが課題となっています。村には、**スキー場をはじめ、豊かな自然、食・農業、宿泊施設、スポーツ環境など、多様な地域資源**があります。こうした資源を個別に活用するだけでなく、地域の事業者や団体とつなぎ合わせることで、これまでにない体験や人の流れを生み出せる可能性があります。本ワークショップでは、2 つのスキー場を地域と人をつなぐ入口として捉え、木島平村の新しい可能性を探ります。

学生の皆さんには、実際に村を訪れ、スキー場や地域の事業者、村民の方々へのヒアリングなどを通じて、地域の魅力や課題、現場の声に触れていただきます。そのうえで、**グリーンシーズンを含む通年でのスキー場の活用や、地域の食・農業・自然・宿泊などとの連携**を考えながら、スキー場を訪れた方が村内のさまざまな場所を訪れ、地域で消費し、再び木島平に関わりたくなるような仕組みを提案していただきます。地域の人たちとともに現場の可能性を探り、木島平の未来につながる新しい取り組みを考えてみませんか。なお、村内にある**「スノーリゾート ロマンスの神様」と「The きじまスノーパーク」はそれぞれ特徴が異なる**ため、2 チームに分かれ、各チームがいずれか一方のスキー場を軸に提案を考えます。

木島平村の魅力

木島平村は、長野県の北部に位置し、東京から新幹線とバスを乗り継いで 2 時間ほど、約 260 キロ離れた場所にあります。日本の原風景ともいわれるのどかな里山風景が広がり、スキー場、高山植物、紅葉等々、四季折々の表情が楽しめる農村地域です。米作りが盛んで、木島平米はかつて江戸城に献上されていたほどの美味しさ。米のコンクールでは、最高賞である金賞を 10 回受賞しています。豪雪に由来する、清らかな水と肥沃な大地を求めて、季節を問わず訪れる人は後を絶ちません。



募集概要

募集期間	2026 年 11 月 13 日（金）～12 月 2 日（水）正午[期間厳守]
募集対象	早稲田大学に在学中の正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず） ※ただし、活動期間中に休学予定の学生を除く
応募条件	**原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと**
募集人数	2 チーム（10 名）
応募方法	**1．事前説明会（オンライン）【応募の際には必須参加】** 日程：11/13（金）、11/19（木）、11/25（水）、12/1（火）12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、GCC オフィス Web および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 4 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:50～13:10）も上記日程で実施します。 **2．事前説明会参加後、以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から応募** ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2026 春編」を検索 ③「地域連携ワークショップ 2026 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2026年12月22日（火）までにWasedaメール**にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、木島平村内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 現地調査費用負担目安： 往復交通費（17,780 円程度）、宿泊費及び食費等（11,000 円）合計 28,780 円程度 〈交通費目安〉東京⇔JR 飯山駅 新幹線/指定席　※飯山駅⇔木島平村は村の公用車で送迎します 〈宿泊先〉村内の**「仲山荘」**を利用し、一部宿泊費は村が負担しています。※宿泊先はペット可 ※但し、後日大学より地域連携ワークショップ活動助成金としての補助があり、交通費等の自己負担額は10,000 円程度になる見込みです。 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施する地域連携スタディツアーに参加が決定している場合も応募はできませんのでご注意ください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、**公欠扱いとはなりません。** ⑩ グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」の対象プログラムです。 注 1：2027 年 3 月卒業予定で副専攻修了を目指される方は、認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑪ ワークショップでは連携先、大学がインスタグラム等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。
問合せ先	Office of the Global Citizenship Center（GCC オフィス）：rbso@list.waseda.jp ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定		日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	事前調査期間	1/18（月） 17:30～20:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者から、課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学		1/21（木） 17:30～20:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ・チーム発表
③	対面グループワーク @早稲田大学		1/27（水） 10:00～17:00	・左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ・そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
④	オンラインヒアリング （@zoom）		2/4（木） 2/5（金）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
【事前調査期間】 ・地域やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・オンラインヒアリングと現地ヒアリングの希望先、質問内容等を検討し、1/29（金）までに自治体へ提出 ・現地ヒアリングに関する追加の質問、村長への質問を検討し、2/8（月）までに自治体へ提出				
⑤	現地フィールドワーク @木島平村		2/16（火） ～2/19（金） 【3泊4日】	・木島平村内の該当施設などを訪問 ・事前に希望した方々等へのヒアリングを実施 【日墓村長懇談：2/17（水）10:00～11:00　予定】
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	追加調査期間	2/25（木） 10:00～17:00	・中間報告会前にグループワーク ・左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ・そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
⑦	中間報告会 @早稲田大学		3/3（水） 10:00～13:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑧	対面グループワーク @早稲田大学		3/9（火） 10:00～17:00	・プレ報告会前にグループワーク ・左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ・そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
⑨	プレ報告会 @早稲田大学		3/15（月） 14:00～17:00	・最終報告会に向け発表練習 ※報告会後はグループワークを実施
【追加調査期間】 ・現地フィールドワークや中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえ、提案の再検証およびブラッシュアップ				
⑩	最終報告会 @早稲田大学		3/23（火） 14:00～17:30	・首長や自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間 30 分） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（ミーティング・グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

●「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）

●**インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）

●今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）**机上の空論でない地方創生とは何か**を学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

●元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）**ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさ**を体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）

●自分の長所や短所を発見することができたし、**意見を出すことの躊躇いがなくなりました**。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）

●あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

●自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）

●ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、**その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にある**と強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）